



史跡 纏向遺跡・纏向古墳群保存活用計画書が刊行されました！

1. はじめに

桜井市教育委員会では、史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群の保存活用計画を策定し、平成28年3月に計画書を刊行しました。

この計画は史跡 纏向遺跡と史跡 纏向古墳群を恒久的に保存し活用していく上での方向性を示したものです。また史跡指定された箇所は纏向遺跡全体のごく一部であり、将来的な指定地拡大や古墳の追加指定なども予想し纏向遺跡全体をその対象としています。計画策定にあたっては、纏向遺跡保存管理・整備活用計画策定委員会の各委員に専門的見地から指導を受け、国や県の関係機関、纏向校区長会、地元区よりご助言を賜りました。ありがとうございました。なお計画書については桜井市纏向学研究センターホームページの刊行物ダウンロードからも閲覧できます。

2. 史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群について

史跡 纏向遺跡は、平成25年10月17日にわが国における古代国家形成期の状況を知る上で極めて重要な遺跡として史跡に指定をされました。現在、最も保存を急ぐ辻地区・太田地区の2か所が指定されています。辻地区では平成20年度からの一連の調査で、3棟の3世紀中頃以前の整然とした建物群が検出されたほか、建物廃絶後に多量の桃核や剣形木製品などが納められた大規模な土坑が発見され注目を集めました。

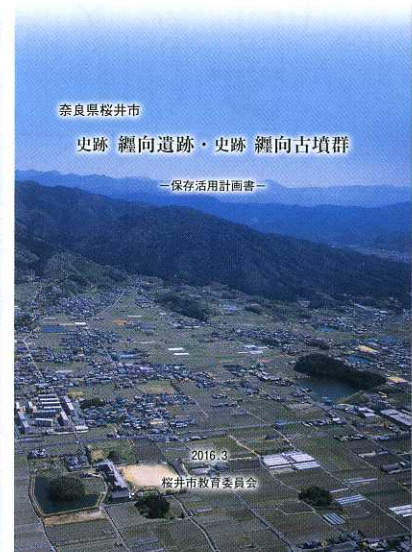
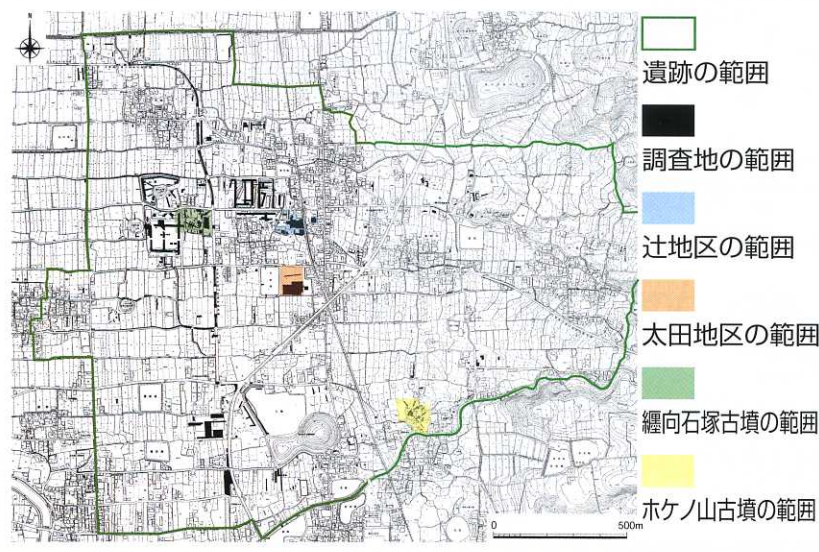


図1 纏向遺跡と史跡の範囲



また太田地区では、掘立柱建物のほか前方後方墳であるメクリ1号墳や、方形周溝墓や木棺墓、土器棺墓など多様な墓制をもつ墓域が検出されており、集落に近接した墓制のあり方を考えるうえで重要な成果を挙げています。

史跡 纏向古墳群は、現在纏向石塚古墳とホケノ山古墳が指定されています。纏向石塚古墳は古墳の盛土や周囲をめぐる周濠からみつかった土器などから、庄内式期に築造されたものと考えられています。ホケノ山古墳では埋葬主体部が調査され、画文帯神獣鏡や鉄鏃、銅鏃、二重口縁壺、小型丸底鉢など多くの遺物が出土したほか、埋葬施設が石囲い木槨と名付けられた特殊な構造をとることが明らかとなっています。両者は古墳がどのように成立していったのかをものがたる重要な墳墓として史跡となっています。

3. 保存活用計画策定の目的

この計画は、纏向遺跡と纏向古墳群のどういった点が重要であるのかを明らかにしたうえで、適切に保存と管理をおこなって次世代に受け継いでいくことと、史跡の整備と活用をすすめて地域の活性化に寄与することを目的としているものです。

保存活用計画ではそのための保存活用の基本方針や現状変更等の取り扱い基準、整備・活用・運営などについて今後の大きな方向性を示しています。以下に計画書にしたがって、その概要を述べたいとおもいます。

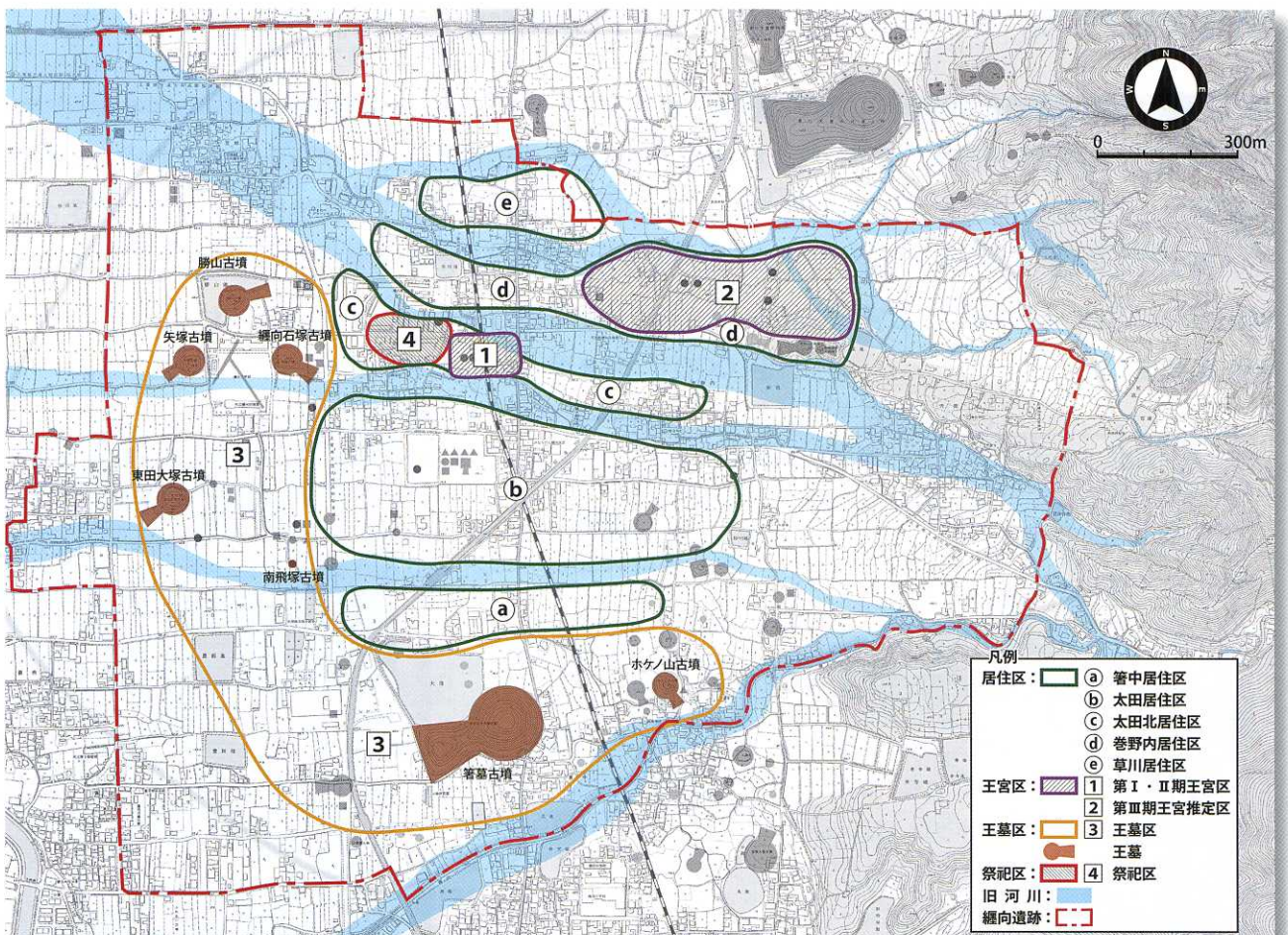


図2 纏向遺跡の構成



